

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

開会年月日時刻

令和5年11月10日（金） 午後3時00分

閉会年月日時刻

令和5年11月10日（金） 午後4時04分

会議の場所

館林市役所 501AB会議室

会議次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 協議・調整事項
 - ・学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画について
- 4 その他
- 5 閉会

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

<p>出席者</p>	<p>館林市長 館林市教育委員会 教育長 教育長職務代理者 委員 委員 委員</p> <p>多 田 善 洋 川 島 健 治 堀 口 哲 哉 木 戸 浩 之 栗 原 昇 金 子 千 秋</p>
<p>説明等の ため出席 した者</p>	<p>(事務局) 政策企画部長 教育次長 秘書課長 企画課長 財政課長 教育総務課長兼学校給食センター所長 生涯学習課長 学校教育課長 教育総務課 総括係長 書記</p> <p>戸 叶 俊 文 始 澤 勝 也 新 井 孝 行 田 口 真 樹 栗 田 祥 仁 木 村 和 好 廣 澤 篤 行 井 戸 健 二 折 原 嘉 和 横 山 瑠璃子</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

教育総務課長

定刻となりましたので、ただいまより令和5年度第2回館林市総合教育会議を開催いたします。

(午後3時00分)

それでは、次第に沿って進めてまいりたいと思います。はじめに、会議の招集者であります多田市長よりご挨拶をお願いいたします。

市長

皆さんこんにちは。教育長をはじめ、教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、心より感謝を申し上げます。本日の議題は、昨年度より継続してご協議いただいております「公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題」を踏まえまして、教育環境の最適化に向け、「学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画」について、取り上げさせていただきました。

現在、国が策定した手引を基にしながら、少子化が進む自治体を中心に学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画の策定が進められております。こうした中、教育委員会の皆様には、当該基本方針等について理解を深めるため、現在策定を進めている太田市を視察され、あわせて一昨年度に小中学校3校を統合して開校した義務教育学校をご覧になられたと伺っております。この後、当該基本方針等についての説明がございますが、皆様が実際にご覧になり、聞いてこられた貴重な情報もございますので、これらを踏まえた忌憚のないご意見ご感想を伺い、皆様と方向性を共有しながら、子どもたちにとって最適な学習環境の整備が図られるよう取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、この総合教育会議は、市長と教育委員会とが教育行政に係る様々な課題等について、協議・調整を図る大切な機会でございます。本日の会議が実りあるものとなるよう皆様のご協力をお願い申し上げます。どうぞよろしくお願いたします。

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

<p>教育総務課長</p>	<p>ありがとうございました。続きまして、会議に入らせていただきます。ここからは、館林市総合教育会議運営要綱第3条の規定に従いまして、多田市長に議長を務めていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
<p>市長</p>	<p>それでは、これより議長を務めさせていただきます。お手元の次策をご覧くださいと思います。3 協議・調整事項に入ります。 「学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画について」を議題とします。こちらにつきまして、協議・調整事項とした理由を教育委員会事務局からお願いいたします。</p>
<p>教育次長</p>	<p>学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画について、協議・調整事項とした理由を申し上げます。昨年度の総合教育会議では、「公立学校の老朽化と児童生徒数の現状・課題」を議題とし、さらに、今年度第1回目の総合教育会議において、これら課題への対応についてご協議いただきました。今回は、この流れに引き続いての会議となります。前回の会議では、様々な先進事例についてご紹介いたしましたところ、学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画の策定とそのための体制づくり、市民の皆様との課題の共有、学校規模適正化等に関するアンケート調査の必要性、更には義務教育学校や小規模特認校に関する事など、様々なご意見を頂戴いたしました。教育委員会におきましては、このようなことから「学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画」及び「義務教育学校の現状」について理解を深めるため、去る10月20日、太田市において義務教育学校「北の杜学園」の視察を実施するとともに、現在同市が進めている当該基本方針の策定に関し、ご教示いただきました。本日はこれらを踏まえまして、当該基本方針・基本計画を中心にしながら、子どもたちの教育環境の最適化に向けて幅広くご協議いただくとともに、今後の方向性についての調整を図るため、議題とさせていただきます。以上でございます。</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。次に、関連する資料が用意されていますので、事務局より説明をお願いいたします。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>「学校規模・配置の適正化に関する基本方針・基本計画について」 (別紙資料に基づき説明)</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。それでは、太田市の視察を踏まえて、学校規模・配置の適正化に係る基本方針・基本計画についてのご意見、ご指摘事項、ご提案などについてお願いします。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>よろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>木戸委員、お願いします。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>施設の老朽化等の現状を見ますと、ある程度スピード感を持って審議会等の設置やアンケート調査を行うことが必要だと感じております。ただ、学校の統合や義務教育学校をつくることが前提ではなく、将来を見据えた基本方針・基本計画を策定するための審議会であったりアンケートであるということを、市民の皆様にも事前に知ってもらう必要があるのかなと感じました。</p> <p>そういった意味において、市民、特に保護者や児童生徒に対して、館林市における現状を知ってもらう機会をどのように設定するのかをお聞きしたいと思います。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>基本方針・基本計画を策定するにあたり、保護者のみならず一般市民の方々にも周知を、というようなお話だと思います。まず、意識調査は無作為抽出で行う想定ですので、対象となるの方々には学校の現状等をきちんと資料でお示しした上でアンケートに答えていただくというプロセスになってくると思います。これを一般市民の方にととなると</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

	<p>現状をお知らせするには膨大な資料になりますので、現時点では難しいところですが、市公式ホームページ等に掲載しながら皆さんに周知していくのが良いかと思っております。市広報紙ですと若干紙面に余裕がありませんので、全てを載せきれない場合があります。そういった面ではホームページを活用し、皆さんに現状をお知らせしながら、審議会等で諮問・答申をいただいた上で、計画策定になっていくと考えております。以上でございます。</p>
木戸委員	<p>ありがとうございます。前回の会議でも広報紙による提供は情報量が多く難しいというお話がありましたが、そこは理解しております。先ほどご提案がありましたが、市のホームページ、あるいはSNSにリンクを貼るなど、何らかの方法を考えていただければありがたいと思います。例えば、公民館単位での説明会など、興味のある方が集まることができるような説明会の場を用意するというのも一つあるかなと思います。</p>
市長	<p>次に、栗原委員お願いします。</p>
栗原委員	<p>館林市の少子化も厳しいところがありますので、適正化に関する計画等は必要だと思います。ただ、あまり早すぎるということもありますので、慎重に進めていただければと思います。</p> <p>質問ですが、事務局の説明ではアンケートを実施してから審議会等を設置するという流れでした。ほかの事例では審議会を立ち上げて、そこでアンケート内容等を協議した場合もあるかと思われませんが、アンケートが先で、その後に審議会等を設置するという流れについて教えていただければと思います。</p>
教育総務課長	<p>先ほど資料でお示しした中には、審議会を設置してから意識調査を行っている事例もございます。館林市ではまず意識調査を行って、皆さんがどのようにお考えになっているかをきちんと整理・分析した上で</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

	<p>審議会にお諮りした方が良いかと、そういった時間が少し欲しいというところが事務局の考えでございます。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>他市でアンケート調査を行っているようですが、質問項目や内容などの情報は手に入っているのでしょうか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>資料でお示した市に関しましては、アンケート調査を取り寄せて、館林市においてうまく活用できるか等、今後詳細に検討してまいりたいと思います。</p>
<p>栗原委員</p>	<p>アンケートというのは、切り口によって市民等の受取方が違うと思いますので、その切り口などは大切にしていければという気がいたします。少子化だからといきなりこのようなアンケートを実施して、では統廃合かなと思ってしまうと大変ですので、その辺りも十分に検討していただければと思いました。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>おっしゃるとおりで、アンケートの見方によって受取方は変わってくると思います。お示した中でも、かなり具体的な切り口で行っている市もございます。こちらに関しましては、背に腹は代えられないほどの状況になっているかということが推察されます。館林市も見方によってはそのような状況だということも考えられますが、まずは基本方針という大きな括りを作ってから、その後に個別の計画に入っていくということですので、広く満遍なく皆さんの意見を伺いたいと考えております。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>次に、金子委員お願いします。</p>
<p>金子委員</p>	<p>北の杜学園を視察して知り得た情報なのですが、太田市では平成24年頃から小中連携の一環として、学校区ごとに小学校と中学校で行事等を一緒に行っているとお聞きしました。そのようなことを踏まえ</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

て、地域の方々の様々な協力を得ながら、そして児童生徒が交流することから義務教育学校へ移行していったということを初めて知りました。館林市で義務教育学校をつくるとなると、地域的な流れ等もありますから、少々ハードルが高いのかなと感じました。統合については様々なやり方があると思いますが、基本的にはやはり子どもたちに良い環境を提供して、子どもたちの自主性や可能性を伸ばせるようなことを私たちはしていかななくてはならないと常に思っています。

館林市がようやく動き出したということでアンケート調査を実施する計画が記載されていますが、この調査の中で、一番は今後子どもたちに最も関わる保護者や学校に在籍している子どもたち、これから進学する未就学児の保護者たち、そういった方々にも対象を広げて調査していく必要があるのかなと思いました。アンケート調査を行うと様々な意見が返ってくると思いますが、その中でこれから館林市を支えていく若い人たちの意見を特に聞いていく必要があると思いました。若い人たちが館林市に残って子どもを育てながら、この学校と地域と一緒にあって館林市を支えていくんだという意識を持たせるためにも、しっかりと意見を聴いていただきたいなと思いました。

それから、質問をしてよろしいでしょうか。今後の計画案の中でパブリックコメントの実施とありますが、対象者はどのような方たちになるのでしょうか。

教育総務課長

貴重なご意見ありがとうございました。アンケート調査を実施する上では、若い人たちの意見を聴けるような制度設計にしていきたいと考えております。

パブリックコメントについてですが、こちらは市の大きな計画を作った素案ができた際、主には市民を対象にホームページ等で公開して、その計画の素案に対して何かご意見がありましたら書面等で提出していただくという制度です。そのご意見等が計画の骨子に必要不可欠なものであったならば、修正をする・しない、といった判断をしていく、それがパブリックコメントというものでございます。

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

金子委員	わかりました。ありがとうございます。
市長	次に、堀口委員をお願いします。
堀口委員	金子委員と似た内容になりますが、アンケートを取るにあたって、やはり現状の学校運営上の課題というものをしっかり可視化して、それを保護者や地域住民の方々と共有して、合意形成が図れるような形のアンケートにさせていただくことが大切ではないかと思います。 また、教育的な観点や公共施設管理の観点、そして地域コミュニティの3つの役割を学校は担っていると思いますが、そういったところをよく踏まえた内容でアンケートを行っていただければと思っております。
教育総務課長	ありがとうございました。制度設計に関しまして、そのようなご意見を反映させていければと考えております。
市長	ただ今、アンケート内容等についてご意見を頂戴しました。そのほか、ご意見等ございますか。
栗原委員	よろしいですか。義務教育学校について、太田市を視察して思ったことです。もし検討するのであれば義務教育学校ありきではなく、子どもたち一人一人を大切にする学校、質の高い教育を提供する学校をつくるために義務教育学校がある、という理念が先に来て、その後に義務教育学校をつくるということが出てくると良い気がします。いきなり人数合せて義務教育学校となると、保護者や地域の方も戸惑うと思いますので、そこは丁寧にしていければと思いました。 教職員側からすると、義務教育学校がもし館林市に1つできるとすれば、そこで行う教育を参考にしながら、ほかの学校でも質の高い、あるいは一人一人を大切にする学校をつくっていかうという気になる

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

	<p>のかと思いますので、個人的な意見としては館林市に1つそういった学校があっても良いかという気はします。どこにつくるかとなるとまだ具体的にはありませんが、子どもたちの立場、教職員の立場からしてもそのような学校が生まれると良いと感じました。</p>
金子委員	<p>太田市視察の際、栗原委員が「太田市ではこれから義務教育学校を2校、3校と増やしていく予定はありますか」と質問なされて、そのようなことは考えていないという回答があった時、私は正直驚きました。北の杜学園をモデル校として、それから進めていくつもりなのかと思っていましたが、太田市はそうではないということでした。やはり、義務教育学校のメリット・デメリットをもう少し考えていく必要があるのかなと思います。</p>
教育長	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございます。私も視察させていただいて、大きな中学3年生くらいの生徒と小さな低学年の児童が手をつないで昼休みを過ごしている様子、また、図書室で上級生に教わりながら図書を選んでいる子どもの様子を見た時に、思いやりの心や相手を慈しむ心、そういったものを高めるためには、子どもの優しさに引き出すためには、非常に良い環境になっているのかなというメリットを意識しました。金子委員がおっしゃるように、デメリットの面ももちろんあるかと思いますが、すぐには思い浮かびませんが、例えば北の杜学園にしても校舎を大きく造ることによって校庭が狭くなってしまったということがありますし、中学生に適したグラウンドの広さかということもあります。やはり、学校については総合的に考えていく必要があるだろうと思います。</p> <p>また、相当な説明等をして保護者の方にご理解をいただくことが必要になります。ただ、ここでは基本方針を策定することを通して、義務教育学校についての議論も選択肢の一つとして今後考えていければと思っております。</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

<p>市長</p>	<p>私も視察結果を拝見して、義務教育学校というのは地域的に小学校と中学校を1つにすることだと思っていましたが、9学年制ということで通常とはカリキュラムが異なるものになっていますね。単に小中学校の統合化と思っていましたが、これは理念がなければできない学校だと感じました。また、小中学校が一緒ということは地域的な背景もありますし、通える範囲内ということも含めた規模や学校設備も必要となります。様々なメリット・デメリットがあるのだろうということが資料から読み取れました。</p>
<p>教育長</p>	<p>先ほどはデメリットがすぐに思い浮かびませんでした。視察で校舎内を見学していた際、開校当初は後期学年である8年生・9年生と低学年の交流ができた方がいいだろうとフロアを一緒にしてみたところ、子どもたちの声が賑やかで、フロアもオープンスペースのような造りでしたから、小さな子どもたちの声が受験を控える生徒たちにとっては支障があるという話もありました。</p>
<p>金子委員</p>	<p>そのお話に関連して、視察の際に私は子どもたちの声、特に6年生から9年生の声が聴きたかったです。北の杜学園が開校して3年が経ちますが、3年前までその子たちは元の学校にいたわけですね。慣れたところから移行してきたわけですが、お話を伺った中では中1ギャップはなかったとおっしゃっていました。同じ学校の中で小学生から中学生に上がっていった時に、この子たちはどのような感覚を持つのがわからなかったのもっと子どもたちの声を拾える時間があれば良かったと思いました。既存の学校に慣れた子どもたちが、また違ったシステムに慣れていくというのは非常に大変ではないかという気がします。子どもたちの様子を見ると、大きな子が小さな子と手をつなぎながら私たちに「こんにちは」と声をかけてくれたり、時間的に給食を終えた後だったのでしょうか、仲良く過ごしている姿を見たりして、確かに普段では見られない姿だとも思いましたが、やはり子どもたちの声をもう少し拾って視察に加えられたら良かったと、</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

<p>栗原委員</p>	<p>それだけが少々心残りでした。</p> <p>中学校の中1ギャップという点で考えて、館林市の小学生は私立の中学校へ行く例も多いですが、魅力的な学校ができると館林市に通う子が増えるのかなという気がいたします。</p> <p>基本方針等を策定すると、例えば二小などは一中に進学するのが10人足らずで、ほとんど転校生のような状態になってしまう子もいます。クラスに2、3人しかいない中で力を発揮するのはなかなか難しい状況があるので、中1ギャップのことを考えると、もしかしたら通学区域についても見直しをしてほしいというご意見が出るかもしれないと感じました。事務局ではどのように考えていらっしゃいますか。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>仮に、統廃合や義務教育学校といった時点では、もちろん子どもの通学時間も含めた通学区域というのは具体的に検討しなければならないと思います。ただ、審議会を立ち上げた時に審議会委員の皆さんがどのようにお考えになるかというところもあります。諮問をして審議会のご意見や考え方を取りまとめるのが私たちの役目でございますので、事務局としてはまだ青写真というのは全くできていないという現状です。まず審議会を立ち上げて、委員のお考えを伺って、それを基に基本方針等を作るというものでございます。ですから、委員からご質問いただいた通学区域につきましても、審議会の中で当然議論になってくるものと考えております。以上でございます。</p>
<p>市長</p>	<p>二小出身の立場からお話ししますと、当時一中の学校区は2つに分かれていました。市長になった時に一中出身だというお話をしたら、私は二小からの進学でしたので、3年間同じクラスでない方たちからは「あの子誰だっけ」とひそひそ話で聞こえてくるような気がしたんですね。二小出身としては環境に馴染むのは大変でした。人口分布も子どもたちの数も異なりますから、適正規模・適正配置の問題というの</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

	<p>は栗原委員のおっしゃるようなことも踏まえて議論しなければならないと思います。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>資料の関連でお聞きしてよろしいでしょうか。いくつか事例を挙げていただいています、この資料に載っている自治体以外、特に近隣の町の動きについてわかる範囲で教えていただければと思います。</p>
<p>教育総務課長</p>	<p>邑楽郡内の状況は把握してございます。ご存じのとおり、板倉町は統合しておりまして、その前段として基本計画を作っております。令和2年4月に小学校2校を再編しておりますので、その前の段階、きっかけは平成25年辺りで、研究報告書などを作成して検討委員会を設置した後、令和2年に統合という状況です。そのほかの明和町、千代田町、大泉町、邑楽町に関しましては、策定に関して公表されている情報はございません。人口減少というのは同じ状況だと思いますので、推測ですが内部的には少し動きがあるのではないかと考えられます。</p> <p>蛇足となりますが、足利市におきましては現在審議会の答申が令和5年9月に終わったという状況でございます。佐野市におきましても既に着手しておりまして、令和5年に葛生義務教育学校を、平成29年にはあそ野学園義務教育学校を開校しております。佐野市は市町村合併もございましたので、田沼や葛生、そういったところでの義務教育学校なども手がけているものと思われま。以上でございます。</p>
<p>木戸委員</p>	<p>ありがとうございます。</p>
<p>市長</p>	<p>各自治体、合併の問題があったところは顕著に出ていると感じますし、少子化が進んでいるところもスピード感を持って行われているということも一つあるかと思えます。</p> <p>では最後に、川島教育長からお願いします。</p>

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

教育長

教育委員の皆様、貴重なご意見をいただきありがとうございました。子どもたちの学びを最優先に考えていきますと、皆様で共通しているのは少子化が進んでいる館林市の状況を鑑みたときに、このままではなくやはり何らかの手を打つべきというところ、そう認識されていることだと感じました。それに向けては基本方針・基本計画を作っていくことが、そのための体制づくりとして審議会等が必要なのではないかと。また、市民と課題を共有したり、課題をご理解いただくために何らかの方法をとったり、アンケートを取っていくこと。アンケートの際には在学している子どもたち、その保護者の方々、未就学児の保護者の方々などを対象にすること。アンケート内容については今後検討したいと思いますが、よく吟味した上で考えていきたいと思っております。

あわせて、栗原委員から学区の見直しというお話も出ておりました。そちらは審議会委員の皆様からのご意見になるかと思いますが、そういったことも念頭に置いておきたいと考えております。先ほど市長もおっしゃっていましたが、やはり小学校から中学校に上がる時に2つ、3つの学区でまとまったとして、10人足らずで進学するというのは果たして望ましい状況なのだろうかと私自身も個人的に感じております。そういったことも含めて、委員の皆様にもまたご審議いただければと思います。今回共有できた部分が多々ありましたので、今後も引き続き検討していきたいと思っております。以上です。

市長

大変貴重なご意見をありがとうございました。アンケート実施に際しましても、子どもたちのことを念頭に置きながらより良い方向で行わなければならないということもあります。また、その内容についても検討の余地があると感じました。少子化が及ぼす教育への影響などについても、市民の皆様との意思疎通が必要かと思えます。アンケートが先か審議会設置が先かという議論もありますが、まずは保護者や学校関係者の方々、そして直接影響を受ける子どもたちとは、こうした状況について情報共有を図るとともに、ご意見を丁寧に伺うことが大

令和5年度第2回館林市総合教育会議議事録

	<p>切だと思えます。</p> <p>また、義務教育学校などについてもご意見をいただきました。基本方針等の検討にあたっては、これらのメリット・デメリットについても含めて検討する必要があるかと思えます。</p> <p>今後の方向性として、当該基本方針の策定を前提に、まずは市民の皆様と情報の共有を図りながら令和6年度にアンケート調査を実施することを本日の協議調整結果としてよろしいでしょうか。</p> <p>(委員から「異議なし」の声あり)</p>
市長	<p>それでは今後に向けて、本日の協議事項を基に教育委員会と市長がお互いに尊重し、協力しながら進めてまいりたいと思えます。</p> <p>これをもちまして、議長の任を解かせていただきます。</p>
教育総務課長	<p>長時間にわたりまして大変ありがとうございました。</p> <p>次第に、4 その他とございます。何かこの場でお話ししておきたいことがある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>(委員等から「なし」の声あり)</p>
教育総務課長	<p>それでは以上をもちまして、総合教育会議の全日程を終了いたします。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>(午後4時04分)</p>